

朝鮮労働党第七次大会にて提示された対内外政策

ムンジョンスク

文正淑

(朝鮮社会科学者協会)

朝鮮民主主義人民共和国の首都平壤においては、主体 105 (2016) 年 5 月 6 日から 9 日まで、朝鮮労働党第七次大会が盛大にとり行われた。

党第七次大会は、金正恩同志を朝鮮労働党委員長として高く推戴する栄光の大会、偉大なる首領たちの神聖な生涯が織り込まれた主体革命の偉業を完成させるための磐石の礎を築き上げた意義深い大会として朝鮮労働党の歴史に刻まれた。

党第七次大会においては全期間、朝鮮労働党が比類なき厳酷な環境のなか、革命発展の全ての段階それぞれにおいて主体的な路線と政策を提示し、偉大な人民に依拠した革命と建設の弛まぬ前進により、社会主義偉業遂行に光り輝く勝利を成し遂げ、祖国繁栄の新時代を切り開くことに対し矜持高く総和し、主体革命偉業の最終勝利を成し遂げるため朝鮮労働党の対内外政策を明らかにした。

金正恩同志におかれては、次のように述べた。

「われわれは社会主義建設の総路線と自強力第一主義を恒久的な戦略的路线として掲げ、社会主義強国建設において偉大な勝利を成し遂げ、来たる社会を金日成—金正日主義化する歴史的偉業を輝かしく実現しなければならない。」

党第七次大会は、全社会の金日成—金正日主義化を党の最高綱領として宣布した。

全社会の金日成—金正日主義化はいち早く金正日同志に提示し、実現していた全ての社会の金日成主義化の革命的継承であり新しい高い段階への深化発展である。

全社会を金日成—金正日主義化するという事は、金日成—金正日主義を唯一の指導的指針とし、朝鮮革命を前進させ、金日成—金正日主義に依拠し人民の理想社会を建設し建設してゆくというものである。

つまり社会の全ての成員を、真実の金日成—金正日主義者に育て上げ、政治や軍事、経済や文化を初めとする全ての分野を金日成—金正日主義の要求のとおり改造し人民大衆の自主性を完全に実現してゆくことを意味する。

金日成—金正日主義は金日成同志が創始し、金日成同志と金正日同志により深化発展させられた主体思想とそれにより明らかになった革命と建設に関する理論と方法の全一的な体系である。

金日成—金正日主義は朝鮮労働党の最終目的である人民大衆の自主性が完全に実現された社会の真の姿とその建設の合法的筋、社会主義偉業遂行の全過程に確固として堅持されるべき戦略と闘争方針を科学的に明示している。

朝鮮労働党が全ての社会の金日成—金正日主義化を党の最高綱領として宣布したことは、ここに党の

最終目的がはっきりと明示され、その最終目的を実現するための科学的な戦略と闘争方針が明示されているためである。

朝鮮労働党が今日全ての社会の金日成一金正日主義化を実現するにおいて基本闘争課題として提示していることは、社会主義強国建設偉業を完成することである。

社会主義強国とは、国力が強く絶え間なく隆盛繁榮し人民たちが世に羨むことなく幸福な生活を心から享受する天下第一の強国である。

社会主義強国建設は全社会を金日成一金正日主義化するための闘争の歴史的段階であり、社会主義の基礎を固め社会主義完全勝利を成し遂げる過程となる。

全社会の金日成一金正日主義化の旗幟のもとに社会主義強国建設の成果を挙げる方途は、人民政権を強化し、その機能と役割を高めつつ、思想・技術・文化の三大革命を力強く繰り広げることである。

人民政権は、社会主義強国建設の強力な武器であり、思想・技術・文化の三大革命は社会主義建設の全期間に遂行しなければならない継続革命の課題であり、人民大衆の自主性を実現するための最も高い段階の革命である。

三大革命を通じて金日成一金正日主義に依拠する全ての社会の思想的統一と統一団結が高い水準で実現され、経済・文化建設において飛躍的な発展が成し遂げられ社会主義強国建設の各目標が達成されるのである。

自強力第一主義を高く掲げることも、全ての社会の金日成一金正日主義化の旗幟のもとに社会主義強国建設の成果を挙げるための重要な方途の一つである。

自強力第一主義は、自らの力と技術、資源に依拠して主体的力量を強化し、自己の前途を開拓してゆく革命精神である。

朝鮮労働党が今日、社会主義強国建設において優先的に達成すべき重要な目標として打ち出しているのは、科学技術強国建設である。

科学技術強国とは、国家の全般的な科学技術が世界最先端水準に達した国家、科学技術の主導的役割によって経済や国防、文化など全ての分野が急速に発展する国家である。

科学技術強国建設の目標は、総合的科学技術力で世界的に先んじている諸国の隊列に、近い将来に堂々と入ることである。

科学技術強国建設のために重要なこととして提議されているのは、科学技術部門において最先端突破戦を力強く繰り広げつつ科学技術が経済強国建設において機関車の役割をするようにし、人材を重視し全民科学技術人材化を実施するための闘争を力強く展開することである。

そして国家の科学技術発展のための国家的な作戦と指導管理を織り込み、整然とした科学研究開発体系を作り上げ、科学技術重視の気風を打ち立ててゆくことである。

朝鮮労働党は、経済強国建設を現時点で党と国家が総力を集中すべき基本戦線として規定している。

経済強国は、自立性と主体性が強く、科学技術を基本生産力として発展する国家である。

国防建設や経済建設、人民生活に必要な物質的手段を自ら生産保障し、科学技術や生産が一体化して先端技術産業が経済成長において主導的役割をする自立経済強国、知識経済強国こそ、まさに社会主義経済強国である。

経済強国を建設するための朝鮮労働党の戦略的路線は、自力自強の精神と科学技術を堅持して人民経済の主体化、現代化、情報化、科学化を高い水準で実現し、人民に裕福で文明的な生活条件を準備してゆくことである。

朝鮮労働党は人民経済の自立性を保障するにおいて、原料や燃料、設備の国産化の実現を中核的問題として提議しており、全ての生産工程を自動化、知能化し、工場や企業所を無人化することを人民経済の現代化や情報化実現の戦略的目標として提議している。

社会主義経済強国は生産力発展水準と国民所得が高い国であるだけでなく、人民に裕福で文明的な生活を保障する人民の楽園であるという点に真の姿と本質的特質がある。

人民生活を弛まず向上させるための事業において重要なことは、経済建設途上で立ち現れる全ての問題を人民大衆の自主的要求と利益を基準として解決し、人民生活に直接服務する各部門の発展を重視して勤労者たちに立派な労働生活条件と物質生活条件を用意し、党と国家の人民的施策を拡大し人民生活を絶え間なく向上させていくことである。

朝鮮労働党は社会主義経済強国建設において大きな成果を挙げるため、主体105（2016）年から主体109（2020）年までの国家経済発展5カ年戦略を徹底して遂行することを、当面の課題として提起している。

国家経済発展5カ年戦略の目標は、人民経済発展を活性化し、各経済部門間の均衡を保障し、国の経済の持続的発展を可能にする土台を整えることである。

5カ年戦略遂行期間に共和国は党の新しい並進路線を掲げてエネルギー問題を解決しつつ、人民経済先行部門および基礎工業部門を正常軌道に乗せ、農業や軽工業生産を増やして人民生活を決定的に向上させる考えである。

朝鮮労働党は、社会主義文明強国を力強く立ち上げることを社会主義強国建設の重要な目標の一つとして提起している。

文明強国は、社会主義文化が全面的に開化発展する国、人民たちが高い創造力と文化水準を帯びて最上の文明を最高の水準まで創造し享有する国である。

朝鮮労働党は、社会主義文明強国建設を急ぎ、全ての人民を豊富な知識と高い文化的素養をもつ社会主義建設の力強い当事者に育てあげ、人民たちに豊かで文明的な生活を存分に享受できる条件と環境を整える考えである。

文明強国建設のために朝鮮労働党は教育事業を発展させ、教育の国、人材の国を作り上げ、保健事業を発展させて人口の平均寿命と伝染病予防率をはじめとする保健指標を世界先進水準にまで高め、体育を発展させて国力を強化し、民族の才知と気概を育てて社会主義文学芸術の全面的開花期を導き帝国主義思想文化的浸透策動を撃退し、社会主義文化と生活様式を徹底して固守し全社会的に道德紀綱を正して現代的な文化情緒生活基地を更に多く、更に立派に推し進めることを重要な課題として提起している。

国の政治軍事を強化することは、朝鮮労働党が社会主義建設において継続して堅持してゆくべき重点課題である。

朝鮮労働党が政治思想強国の威力をあらゆる手段と方法で強固なものにするために強調することは、社会主義国家政治制度を強固に発展させ、人民大衆の政治的自主性を徹底的に保障し、社会の政治思想

的統一を不断に強化してゆくことであり、軍事強国の威力をあらゆる手段と方法で強化するために強調することとは、先軍革命路線を恒久的な戦略的路線として掲げ革命武力、国防力強化に継続して大きな力を注ぐことである。

朝鮮労働党は、祖国統一を実現することを最も重大かつ切迫した課題として提起している。

朝鮮労働党の祖国統一路線は、首領たちが提示した主体的統一路線である。

主体的祖国統一路線は、祖国統一3大憲章である祖国統一3大原則と高麗民主連邦共和国創立案、全民族大団結10大綱領に全面的に具現化されている。

民族自主は、祖国統一3大憲章に貫かれた基本精神であり、統一運動の生命線である。

朝鮮労働党は、北と南、海外の全ての同胞と民族を永遠に分断し朝鮮半島と地域の支配者として君臨しようとする外国勢力の干渉や専横を絶対に許さず、祖国統一問題を民族自決の原則から民族の自主的要求に合わせて解決してゆくべきだと主張する。

祖国統一の偉業は、それ自体が民族の血脈を再び結びつけ、民族的団結を実現するための偉業である。

それゆえ全ての民族が祖国統一の大義を前に思想や理念、政見の違いを超えて一つに固く団結することは、祖国統一運動において堅持すべき重要な原則の一つとなる。

祖国の独立と国の統一を成し遂げるための長きにわたる闘争の中で準備された民族大団結、愛国愛族の経緯と伝統を大切に思い積極的に生かしつつ、仮に過去において反統一の道を行なった者であっても、その人に民族的良心が残っていれば躊躇せず手を取り合い心を合わせて統一愛国の道と共に進むべきということが、朝鮮労働党の民族大団結理念の本意である。

北と南は全民族的合意に根ざす連邦制方式の統一を実現するため共に努力しなければならない。

朝鮮の統一を成し遂げるにおいては平和的方法と非平和的方法がありうる。

共和国はどちらの場合についても準備できているが、祖国の地において戦争が勃発し朝鮮民族が再び戦争の惨禍に遭うことを望んではいないため、平和的統一方式という連邦制統一方式を主張している。

朝鮮の北と南は、相手に存在する互いの思想と制度を認めて受け入れる土台の上に全ての民族の志向と要求に沿って連邦国家を創立する道を進まなければならない。

民族自主と民族大団結、平和保障と連邦制の実現、これは祖国統一3大憲章を貫徹し祖国統一の道を開くための朝鮮労働党の闘争方針である。

祖国の自主的統一を成し遂げるにあたり現時点で最も切迫した問題は、北南関係の根本的改善である。北南関係において提起されている全ての問題は、対話と協商の方法で解決されなければならない。

まず北南軍事当局者の会談開催より始めて軍事分界線一帯での衝突リスクを除去し、緊張状態を緩和することより始めて相互の関心事となっている諸問題を包括的に協議解決することは朝鮮労働党が提起する最も合理的で公平正大な方策である。

朝鮮労働党は祖国の自主的統一を成し遂げるために北と南が合意した祖国統一3大原則と6.15共同宣言、10.4宣言を一貫して掲げ、北南合意を認めて履行する道に進むことを提起している。

祖国の自主的統一のため朝鮮労働党は朝鮮の分裂に関わりある国々と周辺諸国に北南の間の不信と対決を煽ることなく、朝鮮の統一の役に立つことを行ふべきだと提起している。

アメリカは反共和国制裁圧殺策動を中止して南朝鮮当局を同族対決へと煽ることをやめ、朝鮮半島間

題から手を引くべきであり、日本は朝鮮半島に対し再侵略の野望を捨て朝鮮民族の前に横たわる過去の罪に対し反省・謝罪して朝鮮の統一を妨害してはならず、周辺諸国は共和国の自主権を尊重して朝鮮の統一問題が朝鮮民族の要求と意思に沿って自主的かつ平和的に解決されるうえで肯定的な役割をしなければならぬということである。

党第7次大会において朝鮮労働党は一貫した対外政策を再び闡明（せんめい）した。

金正恩同志は次のように述べた。

「自主、平和、親善は朝鮮労働党の一貫した対外政策理念であり、世界自主化偉業を実現するための闘争において変わることなく堅持すべき根本の立場である。」

対外関係分野において金日成同志と金正日同志が生涯にわたり座右の銘として堅持しておられた主体的立場と自主敵対を寸毫も変わることなくそのまま継承してゆくことは自主的対外政策貫徹において朝鮮労働党が堅持している一貫した立場である。

朝鮮労働党は主体的立場に確固として立ち朝鮮革命の要求と具体的実情に沿って対外政策を貫徹してゆき、国際関係において提起される諸問題を我が人民の志向と我々が革命の利益にあわせて解決してゆかなければならない。

朝鮮労働党はこれからも自主、平和、親善の理念を対外活動の確固不動たる指針として共和国の自主権を尊重し友好的に対する世界諸外国との善隣友好、親善協調関係を拡大発展させて地域の平和と安全を守護し世界自主化を実現するために積極的に努力してゆくであろう。

我らの党と共和国政府は、情勢がどのように変わろうとも、周辺関係がどのように変化しようとも、自主、先軍、社会主義の不変針路に従って真っすぐに進むのであり、自主と正義の守護者として世界自主化を実現するための闘争から先駆者の役割を遂行してゆくであろう。

時代が変わり我が国の地位も変わった。

我ら共和国が高い尊厳を有する自主の強国、核強国の地位に堂々とのぼった以上、それに合わせて対外関係を発展させてゆくであろう。

戦争のない平和な世界を建設することは我が党の闘争目標であり、地域と世界の平和と安全のために闘争することは我が党と共和国政府の一貫した立場である。

平和は社会主義の本性的要求であり、常に核戦争リスクの中で生きてきた我が人民が持つ念願である。

朝鮮労働党はアメリカにより強要されている核戦争リスクを、強力な核抑制力に依拠して根源的に終息させ、地域と世界の平和を守護するための闘争を力強く展開してゆくであろう。

我々は帝国主義の核リスクと専横が続く限り、経済建設と核武力建設を併進させることに対する戦略的路線を恒久的に掲げ、自衛的核武力を質量的に更に強化させてゆくであろう。

我々は責任ある核保有国として、侵略的な敵対勢力が核により我々の自主権を侵害しない限り、すでに闡明したとおり先に核兵器を使用せず、国際社会の前に核拡散防止義務を誠実に履行して世界の非核化を実現するための努力をするであろう。

我々は広い包容力と度量で自主を志向し、正義を愛する全ての国や諸民族と、思想や制度の違いに関係なく団結し協調してゆくであろう。

朝鮮労働党と共和国政府は、たとえ過去に我々と敵対関係にあったとしても、我が国の自主権を尊重

し我々に友好的に対する国々とは関係を改善し正常化してゆくであろう。

朝鮮労働党はこれからも社会主義の旗幟、反帝自主の旗幟を高く掲げ、自主性を擁護する全ての国の人民たちと堅く団結して世界自主化偉業の勝利のために力強く闘争してゆくであろう。

[日本語訳 松井聖一郎]